

12/14

地元の伝統・文化を受け継ぐ

ふじみ 藤箕作り体験

国の重要無形民俗文化財に指定されている「論田・熊無の藤箕製作技術」への理解を深めるための体験・学習会が西部中学校で行われ、1年生 27 人が藤箕の歴史や文化に触れました。



博物館の小谷副主幹から藤箕の歴史と製作工程について説明を受けた後、児童らは論田・熊無藤箕づくり技術保存会の坂口会長、北向事務局長から作り方やコツを教わりながら、藤箕作りに挑戦しました。

「箕太刀」などの専用の道具を使用して、細く切ったヤダケと、たたいてのばした藤つるを交互に編み込み、「難しい」と言いながら真剣な眼差しで作業に打ち込んだ生徒からは「地元の文化を学ぶことができて良かった」といった声が聞かれました。



12/17

ひみ寒ぶりを味わう授業

氷見の鰯^{ぶり}を知ろう

「氷見の鰯を知ろう」事業が宮田小学校で開催され、6年生 33 人が朝水揚げされたばかりの「ひみ寒ぶり」を堪能しました。

これは、地元の小学生に氷見の代表的なブランド「ひみ寒ぶり」の美味しさを知ってもらおうと、平成 23 年から市が実施している取り組みです。

三浦氷見鮮魚商組合長が 9.5kg の「ひみ寒ぶり」を 3 枚におろすと、その迫力のある包丁さばきに児童からは歓声があがりました。

「おいしい」「歯ごたえがある」と笑顔を見せ、皿いっぱい盛られた脂が乗ったキトキトのブリの刺身を、部位ごとに楽しみながら味わいました。



12/18

心を込めて作ったよ！ そば打ち体験・試食会

明和小学校の5・6年生15人が8月に種を植え、10月に収穫したそばの実を使って、そば打ち体験・試食会が行われました。

これは氷見市農業委員会が、市内の遊休農地の解消活動として毎年各地区を巡回してそば作りを行い、18年目を迎える取り組みです。

六田敏夫会長ら農業委員会の5人が講師を務め、4班に分かれてそば打ちを体験し、児童らは丁寧に生地をこねたり、棒で薄く伸ばしたりしま

した。

「家族皆で食べたい」と自分で切った持ち帰り用のそばを大切にうに持ちながら、「自分たちで育てたそばを食べることが出来て嬉しい」と笑顔で語ってくれました。



12/26

子どもらしい作品、笑顔で報告 日本版画会展入賞

第59回日本版画会展で最優秀賞、優秀賞に輝いた氷見市造形芸術センターの子ども絵画教室で学ぶ市内の小中学生5人が市長へ受賞と作品の報告を行いました。

同センターでは、5人を含む14人の児童らが合計16点出展し、9人が入選、5人が最優秀賞、優秀賞を受賞しました。

センター所長を務める前美術協会長が「頑張った子どもたちの成果。子どもらしい素直な作品ばかり」とあいさつし、林市長が「どの作品もいきいきとしている。今後の活躍を期待している」と児童らを称えました。

【中学生の部】

最優秀賞「さくら」 山崎 あおいさん(北部中学校3年生)

【児童の部】

高学年の部

最優秀賞「えさをさがしているドンコ」 飯野 諒亮さん(宮田小学校5年生)

優秀賞「外の景色もみてみたい」 森 優佳さん(比美乃江小学校6年生)

低学年の部

最優秀賞「つよみやまくわがた」 西 陽菜さん(宮田小学校2年生)

優秀賞「かにとあそぶねこ」 戸川 藍さん(湖南小学校1年生)



1/1

健康に1年を過ごすために 窪元旦マラソン大会

新年を迎え、心身共に健やかな1年を過ごせるように、第38回窪元旦マラソン大会が窪小学校を発着点に行われ、市内外の子どもから大人までのマラソン愛好家198人が勢いよくスタートを切りました。

当日は晴れ間も見え、参加者は元旦から気持ちの良い汗を流しました。



1/4

豊漁を願い 氷見魚市場初市式

平成31年の氷見魚市場初市式が行われ、漁業者や仲買人などが今年の漁の安全と豊漁、商売繁盛を祈願しました。

森本氷見漁協組合長が「今年の豊漁を祈りたい」とあいさつをし、引き続き、氷見魚仲買商業協同組合の釣組合長があいさつをしました。林市長、橋衆議院議員、堂故参議院議員が祝辞を述べた後、氷見漁協の小島事業部長が三本締めをしました。

初競りでは、競り人や仲買人の威勢の良い声が魚市場に響き渡りました。この日は「ひみ寒ぶり」が、今季最高の1,083本水揚げされ、初日から市場は活気づきました。



1/4

安全で安心なまちづくりを 消防出初式

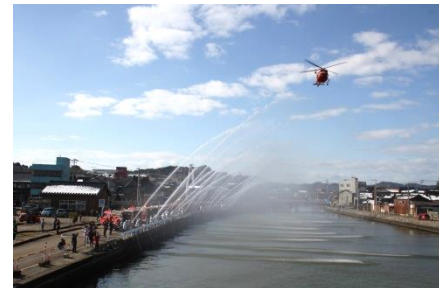
平成31年の消防出初式が氷見漁港緑地公園で行われ、消防関係者ら約380人が参加しました。

これは、消防団員と職員の士気と防火防災への決意を高めるもので、「安全で安心なまちづくり」を推進することを目的としています。

式典終了後には、消防団員による「木遣り(※)」の披露や車両部隊・徒歩部隊による分列行進、上庄川で防火の願いを込めた一斉放水を実施しました。

また、富山県消防防災ヘリの登場に見学者らは笑顔を見せながら「今年も一年安全に暮らせますように」と防火・防災への意識を高めていました。

※元来は複数の人数で一つの作業を行うときに力を一つにまとめる合図としてうたわれていた労働歌であった。現在は、祭礼の歌として歌われており、祝賀の意味を持つようになっている。



障害のある人もない人も共に生きる まちづくりフォーラム



障害のある人もない人も共に生きるまちづくりフォーラムがいきいき元気館で開催され、市民や福祉関係者など約150人が参加しました。

開会にあたり、市社会福祉協議会の高嶋会長が「すべての住民が安心して暮らせるまちづくりを目指す」とあいさつをしました。

また、地域福祉活動に尽力、貢献のあった10人3団体が表彰され、林市長と荻野市議会議長が祝辞を述べました。

その後、社会福祉法人^{ぶっしえん}佛子園理事長 ^{おおや りょうせい}雄谷 良成氏が「人生100年時代とごちやまぜ社会」と題して講演を行い、「^{シェア}share金沢」などでの実践事例を紹介し、参加者は高齢者、障害者、子どもたちなどが共生する誰もが居心地の良いまちづくりについて学びました。

